

「生徒の思考力・判断力・表現力を育てる社会科指導の工夫」

【研究の内容】

第1回 7月16日（土）

(1) 「思考・判断・表現」の観点の評価規準について、定期考査問題を持ち寄り、協議した。協議の中で、以下のことがまとめられた。

- ・複数の資料を読み取り、答えに導く力の育成が重要。そのために、授業内から、資料読み取りの技能を育てることが大切である。
- ・1時間の授業で、4観点すべてを見取るのではなく、単元を通して、見取る。
- ・定期考査問題も、4観点すべてを出題する必要はない。重要なのは、単元を通して、多様な評価資料があること。

(2) 発表報告として、以下の実践報告がされた。

(i) 中等教育学校の地理Bの授業について

- ・高等学校の授業も中学校の学習指導要領の上に立って成立しているもの
- ・現学習指導要領での地理は、選択科目である。そのため、中学校での学びが最後になる生徒もいる。

(ii) 平成27年度実施の都立高校入学選抜試験の問題について

- ・正答率が低かった問題と高かった問題の分析
- ・地形図の読図は、毎年出題されている。授業において、基礎的・基本的な地理的スキルを身に付けさせることは大切である。
- ・世界の歴史と日本の歴史の大きな流れについても出題が毎年である。歴史的分野においても、日常の指導の中で、地図を意識させることは大切である。
- ・多様な資料を読み取り、考察する力を身に付けさせる必要がある。

(3) 先進事例として、「社会科におけるこれからの授業を考える」として、都中社研研究部員より報告された。

① 「協働して、主体的に探求する活動」を見直す視点

- ・単なるグループスタイルになっていないか
- ・社会科の本質に迫る「問い」であるか
- ・「体がアクティブ」なのではなく、「頭がアクティブ」になっていることが大切
- ・適切な資料の提示、タイミングが重要である
- ・ICTについて・ ・書画カメラ等→教師が主体の使い方
タブレット等→生徒が主体の使い方

② 次期学習指導要領について

- ・「何を知っているか」だけでなく、「知っていることをどう使うか」も重視
- ・さらに向かうところは、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」

(4) 講師の先生より、「オバマ大統領広島演説」を資料に、資料の取り扱い方、歴史認識の重要性、社会科として公民的資質をどのように育成していくかについてご指導いただいた。

第2回 12月17日(土)

(1) 各自の研究授業の指導案を持ち寄り、協議を進めた。協議の中で、以下のことがまとめられた。

①導入について

- ・生徒が興味をもつ資料の提示
- ・驚きのある資料の提示
- ・「あれ？」という疑問をもてるかどうか
- ・今の生活との比較ができるものか

②資料について

- ・生徒の目線で考えさせることが大切
- ・見やすいグラフか、大きい字か等
- ・教師が資料を探し、提示することも大切だが、テーマに沿って生徒が自ら資料を探すことも必要ではないか

③思考力を育てる指導の工夫について

- ・何を考えさせたいのかの吟味
- ・思考を深めさせることができる資料の提示
- ・「なぜ？」と思わせる資料が良い
- ・読み取りだけで終わる資料は、良くない
- ・何から考えさせるのか。資料提示の順番も大切
- ・多様な立場を考えさせるのも一つの方法

④グループ活動について

- ・グループ活動が目的になってしまっていないか
- ・グループ活動をすることで、「生徒がこう変わった」と言える指導でないといけない
- ・グループ活動をする意義・多様な意見が出ることを期待する場合

答が一つでない課題設定

④戦後史の扱いについて

- ・今とどうつながっているのか、という視点は必要ではないか
- ・公民的分野への「種まき」がどれほどできるかが大切
- ・視覚資料をうまく提示すると効果的
- ・身近な人の話を入れると生徒は興味をもつ
- ・小学校では、学習していない単元である

(2) 発表報告として、以下の実践報告がされた。

(i) 第42回全日本教育工学研究協議会全国大会佐賀大会での発表として「現代社会の課題について協働して主体的に解決する力の育成 ―タブレット端末を活用した『深い学び』の実現（授業実践を通じた考察）―」について

- ・手段としての ICT、アナログとの併用が大切
- ・デジタルの協働
- ・深い学びにつながる主体的な課題解決力

(ii) 指導教諭の示範授業として、

「北アメリカ州」の実践報告

- ・架空のキャラクターの旅行記を題材に、北アメリカ州の特色をとらえる授業
- ・学び合いとして、地図や資料等を活用し、読み取りをさせる。

(iii) 「北方領土現地視察学習会（根室訪問）」の参加者より、報告がされた。

(3) 講師の先生より、東大の地理問題を資料にご指導いただいた。

- ・基礎的な知識が徹底されてこそ、思考力も伸ばすことができる。
- ・1つの図から、自然環境や産業、人口分布のパターンを多面的に問う問題がある。知識と思考力を組み合わせて考えさせる重要性

第3回 3月18日（土）

(1) 各自の研究授業の指導案を持ち寄り、協議を進めた。協議の中で、以下のことがまとめられた。

①動画の視聴覚教材について

- ・イメージをもたせることが大切
- ・何を考えさせるための教材かを吟味する
- ・どのくらいの時間見せるかについても吟味する



②グループ活動をさせる場合の留意点

- ・グループ内で役割分担をさせるかについては、テーマや発達段階によって変える。
- ・3年間の学びの中で、主体的な学びを育てていく。特に特別活動の時間との連携は非常に大切。特別活動で学んだことを土台に教科に生かしていくことが、理想である。

③資料の使い方について

- ・ねらいに沿った資料の吟味が大切。
- ・資料の提示の仕方によっては、答を誘導していってしまう可能性もあることを考慮する
- ・多面的に考察できる資料が良い。

④ 公民的分野の授業の工夫

- ・ 地理、歴史で学んだことを土台に、思考、判断していく授業を考えていく。
- ・ 主権者教育を念頭に、答が一つでない学習課題の設定
- ・ 22世紀の日本を生き抜く力をどう育てていくかの視点が必要
- ・ 学習方法として、ディベートやパネルディスカッション等の対話的な学びがあると良い
- ・ 単元構成を考える際、事実認識から価値認識の時間を考えて組み立てる。

⑤ 「閉じない社会科」について

- ・ 社会科で学習したことが、他教科や身近な生活に生きることが大切
- ・ 社会科の授業でグループ活動をし、そこで培った力が、学級活動等で生かされることが理想である。
- ・ 毎時間ニュースで話題となっていることに教師が触れる、ニュースを学級活動の時に紹介する等

⑥ 評価規準の考え方について、生徒のワークシートを実際に見ながら、全員で、評価の視点から、単元のねらいを見直した。

- ・ ねらいを明確にすることで、評価規準が決まってくる。
- ・ 指導のねらいと評価規準が一致していることが大切。
- ・ 指導したことを評価する。
- ・ B規準をはっきりさせることが大切。B規準は、細かく設定する必要がある。
- ・ 評価は、一般化することが大切である。生徒のワークシートから、一般性と特殊性を見いだしているかが、重要である。
- ・ 「様々な視点をもっている」という評価規準はあいまいである。「様々な」が、何であるかを指導者は、事前に明確にもっている必要がある。
- ・ 生徒には、事前に評価の観点を示して、指導するのが良い、

(2) 先行事例として、

- ① 東京教師道場 部員による授業公開について、実践報告がされた。
- ② 「東京方式1単位時間の授業スタイルに基づく中学校社会科の授業実践」について、都中社研研究部員より実践報告がされた。



- (3) 講師の先生より、大学の講義資料から、「ゴミ袋有料化の政策について、『効率』『公正』『教育的発想』『経済的インセンティブ』をキーワードに説明せよ」という問題について、ご指導いただいた。

【成果と課題】

(1) 成果

- ①指導案やワークシート、定期考査問題を基に実践報告をし、研究協議において、意見交換をすることにより、「明日の授業」に生かす、より実践的な指導法工夫に結びつけることができた。
- ②都中社研研究部員をはじめ、指導教諭、参加した校長、顧問の先生に毎回、複数参加していただくことにより、より専門的なアドバイスをいただくことできている。
- ②若手教員対象に、指導法の基礎・基本について、徹底を図ることができた。
- ③各種の先行事例を学ぶことにより、今後の社会科教育の方向性を知る機会となっている。
- ④都中社研の事業のほか、各種の研修会を紹介することにより、多摩地区の若手教員の研修意欲を高めることができた。

(2) 課題

- ①若手教員の指導力向上を図るため、実践事例を紹介するだけでなく、共通の課題を提示し、引き続き、より実践的な指導法工夫を図る必要がある。